

2024年11月8日

COP29直前ウェビナーシリーズ第5回

「進捗評価から目標設定へ：グローバルストックテイク（GST）の成果を踏まえた国が決定する貢献（NDC）策定への期待-
米国大統領選挙の結果を踏まえて」

グローバル・ストックテイク（GST） 第1回GSTの振り返りとCOP29に向けて

気候変動とエネルギー領域 フェロー
津久井 あきび

COP29：グローバル・ストックテイク（GST）の「フォローアップ」に注目

GSTとは

- パリ協定の長期目標達成に向けた世界全体の進捗を5年毎に評価する仕組み

第1回GST

- 2023年COP28で第1回GSTの決定文書が採択された。
- 各国はGSTの成果を考慮して次期削減目標（NDC）を策定することが求められる。



COP28で決定

GSTの成果の実施に関するUAE対話の設置

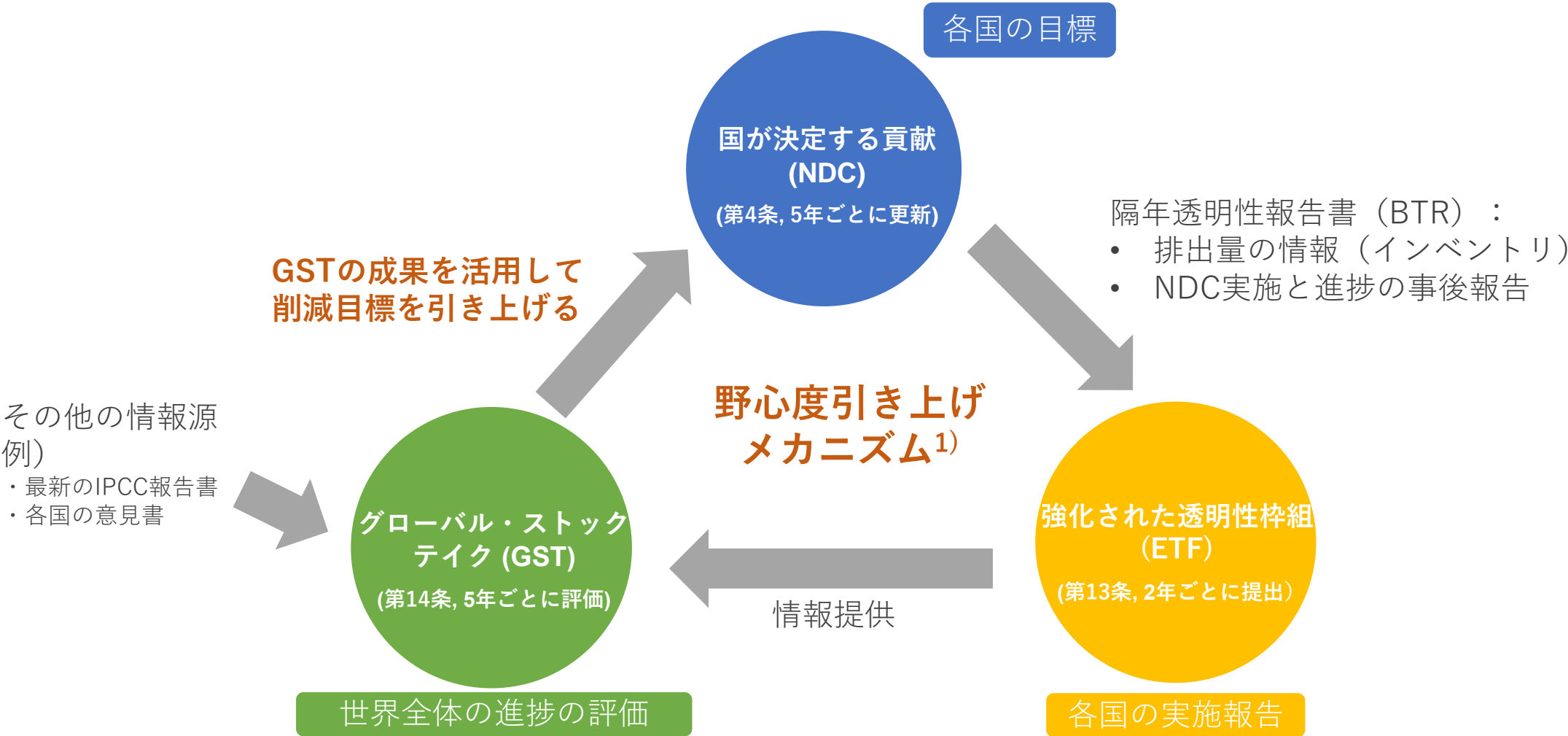
本日本お伝えしたいこと

GSTのパリ協定における役割・仕組み

第1回GST決定文書の内容

COP29のポイント：GSTの成果の実施に関するUAE対話

GSTはパリ協定における目標引き上げのマイルストーン



略語
NDC (Nationally Determined Contributions): 国が決定する貢献
ETF (Enhanced Transparency Framework): 強化された透明性枠組み
BTR (Biennial Transparency Report): 隔年透明性報告書
IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change): 気候変動に関する政府間パネル
1) 津久井「[第1回GST国際交渉の解説](#)」発表資料(2023)を一部改変

様々な分野における進捗を評価

評価分野

緩和

適応

実施手段と支援
(資金、技術、
キャパシティ・ビルディング)

分野横断的課題

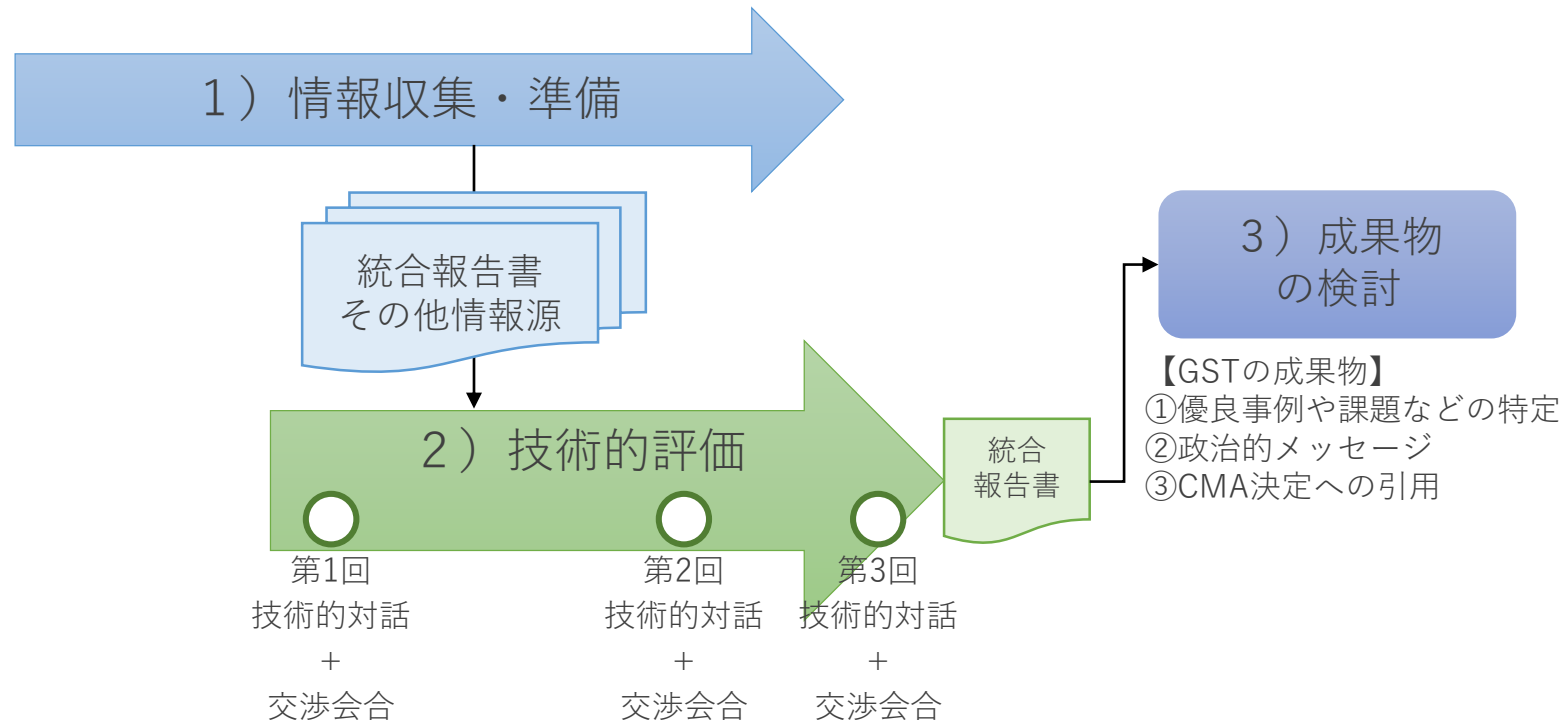
対応措置実施の影響
(気候変動対策の実施による
社会経済的な影響)

損失と損害

評価原則：「衡平性」「利用可能な最良の科学」

「情報収集」「評価」「評価結果の検討」の3つの要素を2年かけて実施

第1回GSTの実施スケジュール



▶ フォローアップ期間

各国政府

- NDCの強化・更新
- 政策の強化・更新
- 国際協力の強化
- 非政府主体との協働促進

非政府主体

- 取組加速
- 政府との協働促進

GSTの成果を着実に実施し、進捗を示していくことが求められる

第1回GST決定文書

第1章：現状（context）・分野横断的検討事項

- 全体としての進捗
- IPCC第6次評価報告書の知見

第2章：パリ協定の目標達成に向けた全体としての進捗

- 緩和
- 適応
- 実施手段と支援
 - 資金
 - 技術
 - 能力構築
- 損失と損害
- 対応措置

各トピックごとに、これまでの進捗、課題、セクター別目標、行動の方向性などがまとめられている
(*含まれる情報や情報の粒度はトピックによって異なる)

第3章：国際協力

- 国際協力の重要性
- 非政府主体の貢献の認識とその重要性

第4章：ガイダンス

- 新たな対話や枠組みの立ち上げ

FCCC/PA/CMA/2023/16/Add.1

Decision 1/CMA.5

Outcome of the first global stocktake

The Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to the Paris Agreement,

Recalling Article 2, paragraph 1, of the Paris Agreement, which provides that the Agreement, in enhancing the implementation of the Convention, including its objective, aims to strengthen the global response to the threat of climate change, in the context of sustainable development and efforts to eradicate poverty,

Also recalling Article 2, paragraph 2, of the Paris Agreement, which provides that the Agreement will be implemented to reflect equity and the principle of common but differentiated responsibilities and respective capabilities, in the light of different national circumstances,

Further recalling, as provided in Article 14, paragraph 1, of the Paris Agreement, that the Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to the Paris Agreement shall periodically take stock of the implementation of the Paris Agreement to assess the collective progress towards achieving the purpose of the Agreement and its long-term goals, and that it shall do so in a comprehensive and facilitative manner, considering mitigation, adaptation and the means of implementation and support, and in the light of equity and the best available science,

Recalling, as provided in Article 14, paragraph 3, of the Paris Agreement, that the outcome of the global stocktake shall inform Parties in updating and enhancing, in a nationally determined manner, their actions and support in accordance with the relevant provisions of the Agreement, as well as in enhancing international cooperation for climate action,

Also recalling decisions 19/CMA.1, 1/CMA.2, 1/CMA.3 and 1/CMA.4,

Underlining the critical role of multilateralism based on United Nations values and principles, including in the context of the implementation of the Convention and the Paris Agreement, and the importance of international cooperation for addressing global issues, including climate change, in the context of sustainable development and efforts to eradicate poverty,

Acknowledging that climate change is a common concern of humankind and that Parties should, when taking action to address climate change, respect, promote and consider their respective obligations on human rights, the right to a clean, healthy and sustainable environment, the right to health, the rights of Indigenous Peoples, local communities, migrants, children, persons with disabilities and people in vulnerable situations and the right to development, as well as gender equality, empowerment of women and intergenerational equity,

Recognizing the fundamental priority of safeguarding food security and ending hunger, and the particular vulnerabilities of food production systems to the adverse impacts of climate change,

Also recognizing the critical role of protecting, conserving and restoring water systems and water-related ecosystems in delivering climate adaptation benefits and co-benefits, while ensuring social and environmental safeguards,

Noting the importance of ensuring the integrity of all ecosystems, including in forests, the ocean, mountains and the cryosphere, and the protection of biodiversity, recognized by some cultures as Mother Earth, and *also noting* the importance of "climate justice", when taking action to address climate change,

Underlining the urgent need to address, in a comprehensive and synergetic manner, the interlinked global crises of climate change and biodiversity loss in the broader context of achieving the Sustainable Development Goals, as well as the vital importance of protecting,

▶ GST決定文書に記載されている事項をどのように実施してくか＝GST成果の実施 (本ウェビナーでの定義)

「緩和」に関するセクター別目標や行動の方向性



1.5度目標達成に向けた緊急の行動の必要性を強調



エネルギー分野における新たな目標に合意

- 2030年までに再エネ発電容量を世界全体で3倍に。
- 2030年までにエネルギー効率改善率を2倍に。
- 化石燃料からの脱却。



二酸化炭素以外の温室効果ガス（特にメタン）の排出削減に関する文言の強化

- COP26/COP27では、「2030年までに二酸化炭素以外のGHG排出量を削減するための更なる行動を検討する」ことを要請。
- GST(COP28)では「2030年までに、二酸化炭素以外のGHG排出量を全世界で加速的に大幅に削減する」ことが明記。



道路交通部門の排出削減の加速に初めて言及

- インフラ整備、ゼロエミッション車や低排出車の導入を通じて、道路交通部門からの排出削減を加速。



2030年までに森林減少・劣化を食い止め、回復させる



持続可能なライフスタイルおよび持続可能な消費生産パターンへの移行

セクター別目標や行動の方向性（=GSTの成果）をどのように実施・実現していくか

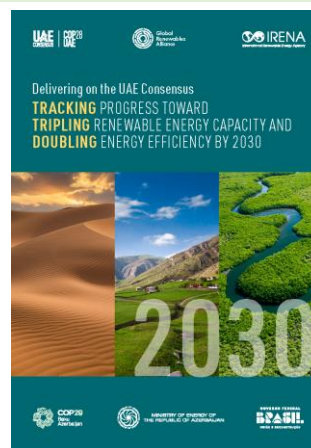
GSTの成果の実施方法（例）

各国によるNDCを通じた実施と隔年透明性報告書（BTR）を通じた報告¹⁾

特にエネルギー部門に関する目標は、各国がNDC目標に反映させ、目標達成に向けた国内政策を整備・強化することで実施できる。また、目標の進捗を追跡するための指標を設定し、BTRを通じて進捗を報告することで、透明性を持って進捗を把握することが可能となる。

国際機関・研究機関による進捗評価

UAE（COP28議長国）は、国際再生可能エネルギー機関（IRENA）に対し、再エネ3倍とエネルギー効率改善率倍増に関する進捗を2030年まで毎年追跡し、報告するよう依頼した²⁾。第1弾となる報告書³⁾が2024年10月に公開された。国際エネルギー機関（IEA）⁴⁾等も報告書を作成している。



IRENA (2024)

UNFCCC・パリ協定における制度や仕組み等を通じた実施

課題

タイムリーな進捗把握

NDCや既存の制度でカバーされない事項のフォローアップ

国際機関等による報告書の理解促進

実施のための
資金・能力・技術的課題

▶ GST成果の実施に関するUAE対話

1) NDCの進捗を追跡するための指標設定およびBTRを通じた進捗報告については、「[強化された透明性枠組（ETF）と隔年透明性報告書（BTR）解説](#)」で解説しています。

2) IRENA. 2024年5月13日. [プレスリリース](#)

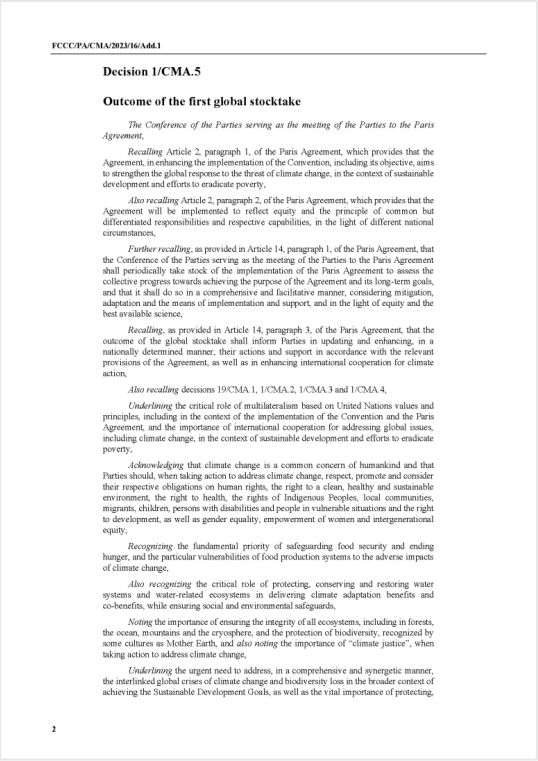
3) IRENA (2024) "[Delivering on the UAE Consensus: Tracking progress toward tripling renewable energy capacity and doubling energy efficiency by 2030](#)"

4) IEA [COP28 Tripling Renewable Capacity Pledge](#), [Energy Efficiency 2024](#), など。

GSTの成果の実施に関するUAE対話

COP28で立ち上げが決定。
COP29で対話の実施指針を策定し、2025年から対話を開始することが期待される。
一方で、対話の範囲を巡り各国の間に大きな意見の隔たりがある。

意見の隔たりがある論点：対話の範囲



第1章：現状（context）・分野横断的検討事項

第2章：パリ協定の目標達成に向けた全体としての進捗

- 緩和
- 適応
- 実施手段と支援
 - 資金
 - 技術
 - 能力構築
- 損失と損害
- 対応措置

「資金」セクションの中に「GSTの成果の実施に関するUAE対話の設立」が記述されている。
資金特化なのか？それとも成果の実施が焦点なのか？

第3章：国際協力

第4章：ガイダンス

GSTの成果の実施に関するUAE対話：各国意見¹⁾

スコープ

全てのGST成果

資金のみを対象とする

資金・実施手段と支援（MOI）に
焦点をおいた全てのGST成果

国

主要先進国



米国



英国



カナダ



日本



豪州



環境
十全性
グループ



EU



同志途上国



アフリカ
グループ



小島嶼国連合



後発開発途上国



中南米・カリブ海
独立連合

主張

NDCや既存の制度で議論・カバーされない事項（特にエネルギーを念頭に）のフォローアップを行うべきである。
「GSTの成果」をどのように活用しているかの意見交換もできる。

資金セクションに記載されているため、資金に特化すべきである。
第1回GSTは終了したのでGST成果の実施進捗の把握は不要。新規合同数値目標の進捗を追跡する場として活用すべきである（同志途上国）。
国別適応計画やNDCの実施のための資金に関する議論を行うべき（アフリカグループ）。

GST成果の実施進捗を評価し、資金調達や実施手段と支援における障壁を特定すべきである。
脆弱な途上国にとってGSTの成果実施には実施手段と支援へのアクセスが不可欠である。

COP29で決定文書が採択された場合

- 対話のテーマ、開催時期と場所、対話の主導者、情報源、成果物、などが決まる。
- GST成果の着実な実施と進捗管理が期待される。**

¹⁾ 各国の意見やポジションはUNFCCCの[サブミッションポータルサイト](https://unfccc.int/submissions)から確認できます。Searchに"UAE dialogue"と入力すると各国の意見書を確認することができます。

まとめ

- グローバル・ストックテイク（GST）は世界全体での進捗を評価する仕組み。
- その第1回目は2023年のCOP28にて終了し、セクター別目標や行動の方向性を盛り込んだ第1回GSTの決定文書が採択された。
- 同決定文書において、「GSTの成果の実施に関するUAE対話」の立ち上げが決定した。
- COP29ではUAE対話の実施指針の策定がGSTに関する主要な交渉議題となる。
- GST成果の着実な実施と進捗管理につながる対話となるかが注目される。

ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域／フェロー

津久井 あきび